



No.106
2021.1.5

SEA NEWS



- ① … 昌平高校が2年連続4度目の優勝 第99回全国高等学校サッカー選手権大会埼玉県大会
レジスタFC [A] が5年ぶり4度目の優勝 埼玉県第4種サッカーリーグ選手権大会
- ② … アヴェントゥーラ川口、関東サッカーリーグ2部昇格! ~長岡修代表と筒井剛毅監督に聞く~
- ③ … 中体連における強化、育成の具体性—南浦和中学校の場合
~さいたま市立南浦和中学校・神立朋次監督に聞く~
- ④ … 新規4級審判講習会、オンライン開催について~木村滋・審判委員長に聞く
- ⑤ … 「生徒のがんばる姿しか、思い出せないんですよ」~県高体連サッカー専門部・二見委員長に聞く
- ⑥ … 大会記録●県内大会 1種大学・2種・3種・中体連
- ⑦ … 大会記録●県内大会 4種・少女・女子
- ⑧ … 大会記録●県内大会 シニア・フットサル 大会記録●県外大会 1種・2種
- ⑨ … 大会記録●県外大会 3種・女子
- ⑩ … 大会記録●県外大会 女子・シニア・フットサル インフォメーション 編集後記

●発行/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 雁ヶ音ビル204号室 Tel 048-834-2002・Fax 048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

昌平高校が2年連続4度目の優勝 ~第99回全国高等学校サッカー選手権大会埼玉県大会

11月15日、「第99回全国高等学校サッカー選手権大会埼玉県大会」の決勝が埼玉スタジアム2002で開催されました。2年連続4度目の優勝を目指す昌平高校に対して、初の決勝進出となった武蔵越生高校が挑みました。試合は後半に入って動き、結果3対0で昌平高校が勝利しました。

今年のメンバーから須藤直輝選手、小川優介選手(共に鹿島アントラーズ)、小見洋太選手(アルビレックス新潟)、柴圭汰選手(福島ユナイテッドFC)と4名もプロ契約を結び、これは高校選手権出場校の中では最多の数です。31日の1回戦の相手は高川学園(山口県)。埼玉スタジアムまで駆け上がってきてくれることを期待しています。



決勝 昌平 vs 武蔵越生



レジスタFC [A] が5年ぶり4度目の優勝 ~第14回埼玉県第4種サッカーリーグ選手権大会

12月13日、443チームの頂点が決まりました。「第14回埼玉県第4種サッカーリーグ選手権大会」は、レジスタFC [A] が1対0で上尾朝日フットボールクラブスポーツ少年団に勝利し、5年ぶり4度目の優勝を果たしました。選手の皆さん、チームの皆さん、保護者の皆さん、お疲れ様でした。また御協賛・御協力いただきました各社の皆様に厚く御礼を申し上げます。詳細につきましては、次号にて紹介いたします。



決勝 レジスタFC [A] vs 上尾朝日フットボールクラブスポーツ少年団



アヴェントゥーラ川口、関東サッカーリーグ2部昇格!

～長岡修代表と筒井剛毅監督に聞く～

長く県リーグの舞台にて関東リーグを目指してきたアヴェントゥーラ川口が、4度目の挑戦で関東への切符を手に入れました。厳しいシーズンの中をどう戦って来たのかを伺いました。(聞き手/広報委員・荒川裕治)

意識、気持ち……今までの違い

—まずは、関東リーグ2部への昇格、おめでとうございます。

長岡・筒井 ありがとうございます。

—早速、喜びの声をと言いたいのですが、通常のシーズンではなかったのが、かなり大変だったと思います。シーズンを振り返る形でお話を聞かせてください。

まずは長岡さん、これまでの中で一番の補強、強化したのではないのでしょうか。

長岡 そうですね。選手の受け入れをしてくださる地域企業様とスポンサー様のご協力をいただきながら、今年は5名の元Jリーガーを補強しました。特に埼玉出身である福田俊介選手(元大宮アルディージャなど)、中村祐也選手(元浦和レッズなど)をはじめ、彼らのプレーを見たいという声は多かったですね。SNSでも反響は大きく、彼らのプレーを早くお見せしたいという思いは強かったですね。もうすでに「来年は絶対に見たい」という声もあります。

—無観客試合が続きましたから、そういう声があるんですね。では筒井監督、この状況の中、チームをまとめるのは大変だったと思いますが、いかがでしたか。

筒井 まずはサッカーそのものが世界的に無くなってしまったことに不安を感じずにはいられませんでした。そこからでしたね。

チームとしては、昨年も「関東社会人サッカー大会」に出場しながらも1回戦で敗退と悔しい思いをしました。ですからプロを経験した選手も、アマチュアの選手も関係なく全員が「今年こそは」という思いを持ってシーズンを迎えたのですが、リーグは延期、全国社会人大会の関東予選は延期と先の見えない日々が続きました。またリーグが始まって「関東社会人サッカー大会」があるのかどうかなど、不透明でしたが、「でも、やろうよ」と声をかけて練習していましたね。

長岡 いろいろなことを信じるしかありませんでしたね。

筒井 そうなんです。サッカーをやる幸せを噛みしめて「そこからやろうよ」でしたね。

長岡 いつどういう状況になったとしても、チームとして勝てる準備をしていこうと話をしていました。メンタル面は強くなったと思いますね。

筒井 いろいろ考えることがありましたが、サッカーをやる幸せと共に「誰のためにサッカーをしているのか」を強く思いましたね。無観客試合の中でもいい結果を待っているサポーターの皆さんがいてくださる。だから頑張ろうと思えた1年でもありました。



—意識が変わったのが大きかったですね。

筒井 「今度は必ず昇格するんだ」という気持ちが強く感じるようになりました。変わったなと思ったのは、負けた試合の後、選手たちが自分たちでミーティングをしていたことです。去年まではいわゆる一方通行。自分の意見を言わない選手が多かったですからね。

あと、リーグ戦(第54回関東社会人サッカー大会代表決定戦)が1回戦総当たりの短期間でしたので、方向性が定まったと思います。これが通常のリーグでしたらブレたり、試行錯誤していたかもしれませんね。とにかく、この「関東社会人サッカー大会」をどう戦うかを考えていましたから。

—結果、代表決定戦は2位。その意識したのは、南葛SCですか?

筒井 南葛とどう戦うか、常に考えていました。「関東社会人サッカー大会」の組み合わせが決まったときは、まだ東京の1位、2位が決まっていなかったのですが、どこで当たってもいいように。まあ、一戦一戦勝ち続けなければならないのは同じですからね。

長岡 ウチとしては4回目の挑戦となりました。ただ、これまでとは気持ちが違ったのは間違いありません。今まではどんな相手でも「昇格したいけれど……」、「五分五分かな」、「昇格できたらいいな」というギリギリの思いがあったような気がします。

今までは試合の前日は眠れませんでした。でも、今回は自信がありました。リーグ戦からいい準備ができたと思っていましたから。実際、トーナメント表を見て昇格への強い思いが湧きました。

埼玉ダービーを、関東リーグを盛り上げたい

—気持ちは大きいですね。

長岡 野村克也さんが著書の中で「運というのは自分が呼び寄せるもので、必然的なものだ」と、そういったことも選手たちに伝えま



したね。

筒井 気持ちがないと行動しないじゃないですか。とにかく選手たちがよくやってくれました。確かに元プロ選手たちは注目されましたが、そういうのを取り払ってチームのために働いてくれました。全員がコミュニケーションを取れるようになり、同じ方向に向けたことが大きいですね。また柱谷幸一（元日本代表FW、拓殖大学コーチ）さんがテクニカルアドバイザーに就任され「応援されるチームになりなさい」「フェアプレー」「そして内容にもこだわれ」とアドバイスをもらい、選手に落とし込んでいきました。

—いろいろと変化があり、その中でつかんだ昇格だったんですね。さて、来期に向けての準備が始まっていると思います。

長岡 今期は降格がなかったので、来期は1部が12チーム、2部が10チームで開催されます。結果的にどちらも4チーム降格することになります（JFLへの昇格があれば増減あり）。なかなか大変なシーズンとなると思われます。

筒井 確かに大変でしょうが、個人的にはさいたまSCさんと東京国際大学FCさんとの「埼玉ダービー」を盛り上げていきたいと思っています。というのは、サッカーができない時期というのは本当に辛かったんです。まさに苦痛でした。ですから、来年はサッカーができる幸せを感じたい、楽しめるようにしたいと考えています。

もう一つは、関東リーグをもっと知ってもらい、お客さんに来てもらうことです。一人でも埼玉のチームでプレーしたい、応援したい



筒井剛毅監督(左)と長岡修代表(右)

と思う人が出てきてくれればうれしいですね。

長岡 以前、川口青木町公園での試合では、県リーグの他のチームの人たちから「雰囲気がいいよね」と言ってもらえました。まず目指すのは関東リーグの試合で満員にすること。あと、一緒に昇格した南葛SCさんとの試合は特に盛り上げていきたいですね。

筒井 そのためには、地域をはじめ、川口市民60万人の皆さんに「アヴェントゥーラ川口」を知ってもらえるよう、努力して認知度を上げていかなければいけません。

—楽しみにしています。ありがとうございました。

中体連における強化、育成の具体性——南浦和中学校の場合

～さいたま市立南浦和中学校・神立朋次監督に聞く～

県内の強豪クラブを退け、高円宮杯関東大会へ

—高円宮杯関東予選に中体連として出場したのは、何年ぶりだったでしょうか。昨年は全中（全国中学校サッカー大会）にも出場されるなど、南浦和中学校が異彩を放っていますね。神立先生の手腕が大きいと思っています。

神立 結果から言えば、今年の3年生は新人戦で優勝し、リーグ戦（県2部A）では8連勝して優勝、高円宮杯の県予選でも勝ち上がり、関東まで行きました。負けたのはリーグの最終節（対レジェンド熊谷）と関東大会でのジェフユナイテッド市原・千葉だけでしたね。まあ、ジェフに負けたのは実力通りだと思っています。

—すばらしい1年だったと思います。これで先日の新人戦で準優勝した今の2年生は来年も県2部とは残念ですね。それにしても、急激な強化ができていないのでしょうか。具体的に何をされているのでしょうか。可能な範囲でお聞かせください。

神立 まずトレーニングですが、3年間同じことをやっています。技術です。1年生のときから両脚でボールを同じように扱えるようになることを徹底しています。リフティングやドリル的にコーンを使ったドリブルでしょうか。なんとなくできていることを徹底してできるようにしています。特にドリブルに関してはこの10年、尾間木中時代（2011年から3回全中出場し、2014年はベスト16。関東大会は4回出場）から取り組んでいます。

尾間木はサッカーが浦和の中でも盛んな地域なので、素材的にいるんです。しかし正直、この辻、文蔵、南浦和という周辺はそうでもないかなと思っていました。ところがあるんですよ！彼らもやっぱり浦和の子なんですね。持っています。着任早々、地元の少年団に挨拶へ行ったら指導者の皆さんからは「やっと来たか」「がんばって選手を送るから」と激励されました。

—地域の少年団の皆さんへ、何か要望をされたとかありますか？

神立 特に技術云々は求めていません。少年団さん毎に独自で活動される中でがんばっていただければという話はしました。

というのは、私たち公立中学校の教諭はそんなに長くはいられま



せん。いて7年、がんばって8年。尾間木に着任したのが2010年で、今回の南浦和には2016年から。となると、先は見えています。だから、即効性が求められているようです（笑）。

—即効性ですか？

神立 「来たからには強くなるでしょ」と言われちゃうんです。期待されているんだなと思います。

赴任した5年前、南浦和は当時さいたま市リーグにいて、勝ち上がって翌年は県南2部で優勝、次に県南1部で2位、そして今年度は県2部と毎年一つずつステップを踏んできました。他の中学も県リーグに昇格するのですが、県だとクラブと一緒にすることから残念なことに1年で降格というのが続いていますので、まずは残りたいと思っています。昨年度は全中に出場（1回戦で敗退）。私がというよりも、子どもたちが評価されてもいいのかなと思っています。

静岡学園、ルーテル学院、青森山田……

—さらに関東リーグと周囲からは期待もあるのでしょうか。さて、の中で今回の3年生の特徴をどのように捉えていらっしゃるんですか。

神立 技術プラス、フィジカルが強いという個性でしょうか。全体的



神立 朋次 氏

になりました。去年の原山(全中でベスト4)のメンバーよりも力があるのではないのでしょうか。全国でベスト4に入るくらいの力はあると思っています。

それにしても楽しみにしていた全中がなくなったのは子どもたちにとって、ショックだったと思います。その後、高円宮杯を目指そうという話をし、自主トレをしながらなんとか再開して。でも、高円宮杯は県大会からの出場でしたので公式戦がなく、8月からはクラブとの練習試合を積極的に組みました。9月からはリーグ戦もあり、上手く調整できたと思います。

実は、高円宮杯の県大会代表決定戦の前日……9月13日に準決勝で1FC(川越水上公園)とやり、21日に(AC)アグレと決勝というスケジュールでした。それが20日に急遽、鹿島で青森山田と試合ができることになり、やったんですよ(笑)。結果的に1対3で負けました。圧倒されました。次の日、コンディショナルにはきつかったと思いますが、選手に聞いたら「いい感じで試合ができました」と言ってくれたので、「青森山田と試合ができてよかっただろう」と言っておきました。

ちなみに、今の2年生は入学当初は9人しかいなかったんですよ。なんとか声をかけて仮入部の生徒も含めて11人からのスタートで、クラブから戻ってきた生徒で、なんとか15人。1年前はさいたま市でベスト16止まりだったのが、今年は新人戦で準優勝まで来ました。

「ダメなものはダメ」

—サッカーの結果がよくなったことでサッカーそのものに注目してしまっていますが、ちょっと違うようですね。

神立 特に今の2年生は私が受け持っている学年ですので、生活面の指導を厳しくしたということでしょうか。その上で子どもたちががんばってくれました。

掃除、給食、授業。教員は生徒たちの行動すべてを見ることがができます。それが大きな利点です。例えば給食ですが、学校として残食はほぼゼロです。好き嫌いをなく食べるよう指導しています。余っているのであればサッカー部員は積極的に食べるように指導しています。すべては慣れ。毎日やっていたら、できるようになります。挨拶も大きな声を出せるような雰囲気づくりは大切です。

昭和の時代の生まれ育ちだからか…私はスポーツと日常生活とを切り離すことができないんですね。掃除とか給食など、クラスのためにできない生徒は、試合に信用して送り出せません。そういう選手が最後の最後で足を出してPKを与えてしまったりするような気がします。私はサッカーの神様は見えてきていると思うんです。

クラブの指導者の皆さんにも、こういう生活指導から関わりたいと思っている人はいます。ただできるかどうか。中学校の教員ならばできるんですね。だいたい、冬場のトレーニングは放課後の1時間程度ですよ。17時完全下校ですからね。朝8時から学校に来て、授業は15時過ぎまで。それから練習です。繋がっているんです。だから、体育の授業の1,500mも一生懸命に走るんですよ。

に身長が高いというのはあります。あとはチームとして、どの学年も真面目に取り組んでくれていますね。

全国的に見て、今の中3は青森山田が抜けています。2月に静岡学園とルーテル学院(熊本)とは練習試合をし、ある程度勝負になると踏みました。ただ青森山田とは3月にやるはずだったのが流れてしまったんですね。

中学に限ってですが、関東では簡単に負けないチームに

しつくとして、言わなきゃわからないことがあります。伝えなきゃいけないことがあります。サッカー部でもクラスでも、「俺がダメなものはダメ」と言っています。そういう信頼関係を築いていくことは大事なことです。生徒が家に帰って保護者に愚痴をこぼしても、そこで保護者の方から「神立先生がダメだって言っているんだったら、ダメなんじゃないの?」と諭していただけるように。

サッカーの試合において—自分ではファールしていないと思ったら、ついアピールしてしまうでしょう。でも笛を吹かれたらファールなんです。そこでアピールするよりも、やることあるはずですよ。人生も同じで、自分の思い通りにならないことが多々あります。でも、「それはお前だけじゃないよ」と言ってあげないと。もちろん、その日その日で機嫌の悪いこともあるでしょう。でも、そういうことを消化できる心の強さを育てるのも、この中学年代だと思えます。主審に笛を吹かれた後、何をすべきか。何をすることがチームのためになるのか。もちろん、吹かれなければ前に運べばいいのですから(笑)。

だから、ドリブル

—そういう教えが身についているんですね。だから神立先生が指導されているチームを見てると、先日の新人戦もそうですが、とにかく前に行くことを意識づけされているように思います。

神立 そうですね、まずはボールを奪いに行くことを意識させています。この年代は戦術云々ではなく、1対1が大事だと思っています。攻撃においても守備においても、目の前の相手に対して勝つ、責任を持つということです。グループ戦術もありますが、まずはボールを奪うこと。ボール保持者には当たり前に近い選手が行く、それ以外の選手に対してもしっかり対応するのです。11人对11人というゲームの中で、ピッチ上でマークがないのはGKだけ。誰かが余っているようではおかしいという考えで指導しています。

確かに前に行くことが多いので、DFの裏に長いボールを入れられることもあります。この10年、私のスタイルとしては変わらないですね。

もう一つ考え方があって、マイボールの場面、ドリブルで仕掛けていくとします。ドリブルで仕掛けて相手にボールを取られるとするじゃないですか。それだと取られた次の瞬間から守備に行けますよね。取り返すことができるかもしれない。でも、パスミスからボールを失うとだいたい自分ではなく、ボールサイドに近い仲間の誰かがアプローチしなければなりません。パスミスの方がその後が大変なのです。

だから、ドリブル。ボールを扱うことを恐れないようにするために技術を求めます。オフでの動きなどは高校、ユースで指導してもらえばいいと考えています。まずこの年代ではオンのところにこだわります。

単純ですよ。試合でボールを失った場面があったとすれば「それ





は技術が足りないということ。だから練習しよう」と言えるんですから。ですから、平日のトレーニングでは基本的に逆足で行っています。利き足と同じようにボールを扱えることができるように。強度やスピードを変えながら、これを3年間続けています。

「火を消さない」

—とはいえ、サッカーは実践(試合)が大切だと思います。

神立 平日は練習ですが、土日は試合。公式戦がなければ、とにかくどこでも練習試合を組みます。例えば、南浦和に赴任した当初、保護者の皆さんにわがままを言いました。「保護者の皆さんも送迎などで時間を割かれますよ」と。要は、遠征に行きます、強い相手と試合をします、ということです。確かに、結果として大事な大会で勝てなかったらどうしようという不安はありますが(笑)、試合をしないと強くなりません。

ある保護者の方の話ですが、息子さんたち、兄弟を見させてもらいました。お兄ちゃんが初年度にいたときに、今の話をしたんですね。弟が昨年、全中へ行きました。そのときに「『あのとき、この先生、何を言っているんだろう』と思いましたよ。でも、こんな結果が出るんですね」と。

改めて言いますが、7、8年しかられないのです。他の中学校で結果を出せたのは選手がよかったからかもしれませんが、私が南浦和に赴任した当時、試合といえば市内や近隣の中学との練習試合くらい。それが今では青森山田や静岡学園と試合をしています。そういう積み重ねがあって、今の1、2年生の保護者は全国に行くつもりでいてくれます。だから子どもたちもトレーニングに対する姿勢がさらに真面目になってきてくれます。

—大きな変化があったんですね。それもサッカー部だけではなく、南浦和中そのものが変わったのでしょうか。

神立 学校を味方に、ではありませんが、サッカー部だけではなく他の部活、クラスでも同じように接することで信頼を得ることができました。こういう広がりがあるのは学校のよさですね。そういう中で、もう私の後任候補になりますが南浦和にも教え子が来てくれ、かつ尾間木には他の教え子を残して「火を消さない」状況になってきています。

—人づくりも一緒にですね。

神立 その場がよければいいわけではありません。やはり転勤ありきですからね。せっかく火がつけたならば、それをどう燃やし続けるか。それは指導者でしかありません。もう中学校の教員になり、サッカー部の顧問をしている教え子が6人います。私の考えを理解し、それぞれの学校でがんばってくれています。

あと、さいたま市のサッカー専門部の委員長を拝命しています。もう4、5年やっています。近年は大宮地区も含めて、各学校にしっかりと指導できるサッカーの指導者が配置されるようになりました。これからは若い指導者の皆さんががんばれる場を提供したいと考えています。よく言う話ですが、まずは試合をしなさい、と。ユニフォームを作って、そのユニフォームを着て練習試合をしなさいと。「ウ

チは弱いですから」という声には「弱いところ同士でやればいいんです」と言っています。今、南浦和中は確かに全国の強豪中学とも練習試合をしますが、尾間木や白幡など以前の赴任先はもちろん、いろいろなところと試合をしています。市外でも朝霞一中や戸塚西中のように熱を持った指導者とは一緒にやりたい。まだまだ教わりたいたいというのがあります。

まだまだ中体連の部活でもできること、やれることはあると思うんですよ。なにせ、私はまだ教員になって15年ですから。熱は冷めていないですね。まだまだです。

「まだ15年」

—15年ですか? 初めてお会いしたのは与野東時代だと思います。

神立 覚えていますよ。最初は土合でしたから二校目で、柏先生(悦郎氏・SFA理事/技術委員長)の後、栗原先生(勝義氏)とやっていった時代ですね。

実は私は白幡中から武南高校へ行き、卒業した後、資金を貯めてロンドンに行きました。学校には行きましたが……戻ってきて旅行会社に勤めました。その頃に母校の白幡中の外部指導員になって、この年代の指導に関わり始めました。面白くなって、ツアコンをしていると土日の試合に帯同できないので、会社を立ち上げて時間を自由にできるようにして指導を続けました。でも、「教員じゃないとできないことがある」と思うようになり、大学に入って教員免許を取り、40歳で教員になりました。担当教科は英語です。

—確かに15年ですね。ロンドンではサッカーを?

神立 公園で仲間に入れてもらってサッカーをし、週末はまだプレミアリーグになっていない、イングランドリーグを観に行くという日々でした。よく観に行ったのはアーセナル。とはいっても、外国人選手としてトッテナム・ホットスパーにアルディレス(オズワルド・アルディレス。元アルゼンチン代表MF、元清水エスパルス監督他)が入った後で「フォークランド紛争(1982年)の相手国から選手を入れるなんて」と論争になる時代。サッカーは昔のフィジカルサッカーでした。でも、チケットは安かったし、スタンドは選手に触れるんじゃないかと思えるほど近くて、楽しかったですね。そういえば1988年のEUROの決勝、ミュンヘンまで行ってオランダの優勝を見ましたしね。日本へ帰りたくなくなる中、サッカーが自分を救ってくれましたね。

—本場を見てきて、いろいろと感じたものが指導のベースになっているんですね。

神立 でも、やるのは彼らです、子どもたちです。「それ、ゲームでできたの?」。そう言ってあげれば、自然と練習をするんです。ずっとドリブルだけをやっていてもいいんです。ずっと1対1をしていてもいいんです。今、やらなければならないことをやればいいんです。トレーニングしないと上手くならないし、試合をしないと強くなれないのを知っていますからね。

—気づかせること、自発的に動くことを懸けられているんですね。高円宮杯関東大会の話を中心にと思いましたが、他の話で長くなりました。またぜひ。ありがとうございました。

新規4級審判講習会、オンライン開催について ～木村 滋・審判委員長に聞く

新型コロナウイルスは様々な現場に大きな影響を与えています。指導者でも審判でも「資格」が必要となっていますので、例年各地で講習会を開催しています。ところが、講習会そのものが「密」になることから、審判委員会ではオンライン講習会を模索しています。事例と共に現状を、新任の木村滋審判委員長（上尾橘高校教諭）に話を伺いました。

昨年、新規受講者は約5,700人

—委員長就任、おめでとうございます。

木村 ありがとうございます。しかし、まだ全体が見えていない状況が続いています。

—そういう状況、かつ大変な時期に就任されたわけですが、どのような方向性をお持ちでしょうか。

木村 現状について思うことは、どなたでもビデオで試合を撮影できる環境にあります。映像で「こういうプレーは許されるのか」「このジャッジは正しいのか」というご指摘をいただきます。ある意味、審判に対してのプレッシャーですが、言い換えれば改善してほしいという期待があると思っています。残念ながらすぐに改善できることはありませんが、状況は変えていくことは可能だと思っています。

具体的には、4種での試合で行っている「アフター10」（試合後、両チームの監督と審判団、担当者が揃って試合を振り返る）を地道に進めたいと思っています。やはり4種での取り組みが将来的に県全体へ波及すると思っています。

—ぜひ、より具体的な方針を出されましたら、「SFA NEWS」でもご紹介させていただきます。

さて、今回は就任の話よりも、全県だけでなく、JFAでも困っているという「審判講習会」についてです。毎回、講習会方式で行っていたものをオンライン開催されていると聞きました。その現状をお聞かせください。



木村 滋氏

木村 大学、高校の新規4級審判取得講習会をオンラインで行いました。実際のところ、4月から7月にかけて、会場開催は実施できませんでした。会場の貸出を制限されたことが原因ですが、毎年受講する方が多いことを考えると、席数を減らして実施した場合のようになるのか……。関東の各都県でもアイデアを出していましたが、埼玉県は規模が大きいので、簡単に「埼玉県ができる」ものがなく、苦慮しました。

去年は、4級審判の資格を取得された方が、5700人いらっしゃいました。4種でボランティア的に取得する保護者の方々、高校生のユース審判、そして大学生です。今年度は、オンライン講習会で対応できたのが、高校生と大学生です。

—具体的な事例として、お話しいただけますか。

木村 高校のオンライン講習会は8月の下旬から4日間、共に午前と午後と8枠を設定しました。この8枠の中で学校事情に合わせて選んでいただきました。オンライン講習会でも対面講習会と同様の内容を維持するためJFAのホームページに掲載されているビデオを事前に学習しておくことをお願いした上で、2.5時間に短縮しました。

これはメリットになり、受講者が倍以上に増えました。昨年までは講習会のスペースの関係で定員を設けていましたが今回、いくつもの学校が同時帯に講義を受講できることになり、大幅に定員を増やすことが出来ました。各学校で会場とオンラインの環境があれば人数制限もなく、わざわざ会場へ出向く必要なく、かつ日と時間を選べるという面では好意的な声を多くいただきました。

逆にデメリットとしては、オン・デマンドでも映像を流すことのできるGoogleの「クラスルーム」を活用しましたが、私立、市立、また大学では「Zoom」など別のアプリを使っていることもあり、同一規格で行う難しさを感じました。大学では「Zoom」を活用しましたが、100人を超える講習会では入室チェックの確認だけで時間がかかってしまいました。また、「Zoom」で行う場合は、予め作成した映像を流すのではなく、リアルタイムで講義をしなければならずパソコンの操作を含め講習会そのものの運営スキルも高める必要があると感じました。

アプリによっての違い、労力、しゃべりは……

—オンラインですと、本当に受講しているかどうかははっきりしないことも多々あります。その対応はどのようにされたのでしょうか。

木村 まずは「学校」ですので、顧問の先生がいるので、受講態度などは問題なしと踏まえました。あとはGoogleフォームを使い、講習会の合間に小テストを行うようにしました。こちらとしては基本的に全編、映像を中心に行いました。リアルタイムで講義をしてはいるので、理解度の確認が難しいです。直接講義をした場合は、受講者の顔色を見ながら対応できるのですが、オンラインでは一方的な話になり、かつ我々もオンライン講義そのものに慣れていないので小テストを組み込むことで、理解度の確認をしながら進めました。……小テストは満点にならないと次にいけないシステム、かつ「参加状況」の確認にもなります。

—まだまだ工夫できることはありそうですね。ただ、講義そのものの映像準備は大変だったのではないのでしょうか。

木村 10回以上撮り直し、思った以上に苦勞したと聞いています。担当した皆さんには感謝しています。確かに回数や受講者の数を見れば効率的にはなりましたが、労力を考えると……。指導者も画面やカメラに向かって話をするのは慣れていませんし、上手に話すことは難しいことです。とはいえ、映像にしたことで同じ内容を提供できるようになり、会場によって内容、クオリティのばらつきはなくなったことはメリットです。

—なるほど。あとは、これを毎年4地区で行っている一般の方向けの講習会で使えるかどうかですね。

木村 そこは「Zoom」になるのかとは思っています。ただ、サッカー経験のある一般の方ばかりが受講するわけではありませんので、そもそも2.5時間の中で理解していただけるかどうか分かりません。やはりなんらかの形で、講習会はしなければならないのではないかと考えています。

いずれにせよ、このような状態がまだしばらく続くという想定の中で計画、準備をしていかなければなりません。まだ一般の方向けのものに関しては具体的なアナウンスができずに申し訳ございませんが、皆さんからお知恵をいただきながら進めてまいりたいと思っています。

別の話になりますが、コロナの影響で試合数が減ってしまいました。審判員にとってもゲームが減ってしまい昇級を目指している方の実践の場が無くなり昇級のチャンスが減り難しくなっています。とはいえ、このような中でもがんばっていただいている審判員の皆さんにはできるだけサポートをしていきたいと考えています。引き続き、よろしく申し上げます。

—選手の皆さんだけでなく、審判員の皆さんも健康・安全に気をつけていただきたいと思います。こちらこそ、今後ともよろしくお願いいたします。

「生徒のがんばる姿しか、思い出せないんですよ」

～県高体連サッカー専門部・二見元委員長に聞く

関東大会、高校総体が中止となる中、今年、県高体連サッカー専門部に二見元委員長（大宮東高校）が就任しました。この難局の中、無事に「全国高等学校サッカー選手権大会」の県予選を終えたところで、この1年を振り返ってもらいました。（聞き手／藤田雅彦・広報委員長）

なんとか高校選手権を

藤田 とにかくここまでお疲れ様でした。

二見 ありがとうございます。委員長になって、すべてが初めてのことばかりの中、本当にいろいろなことがありましたが、執行部のメンバーと諸先輩の皆さんが力を合わせて、一つひとつやってきました。私よりも副委員長の鈴木豊（浦和南）、大野恭平（市立浦和）、庶務部長の谷直樹（県立浦和）の彼らがこの難局を乗り切ってくれたと思います。また周りのメンバーや、前任者の池田先生（一義氏・川口北）にはコロナ対策に関して多くのアドバイスをいただき、感謝しています。

藤田 振り返ると、2月の新人戦が終わった後から大変でしたね。

二見 関東大会の抽選会の準備をしながら、池田先生から引き継ぎをしていただいている中で、休校になりました。さらに関東大会の中止も決まるわけですが……やはり、休校になったことで練習ができないわけです。本来ならば新年度が始まるはずの中でかなり不安なスタートとなりました。

大会が中止、会議もできない……どうしたらいいかわからない中、学校に生徒が来ない、グラウンドに生徒がいないわけです。改めて、当たり前前の日常に感謝しました。入学式に保護者がいない、桜の咲く頃に2年生、3年生が来ていないなんて簡単には受け入れられませんでした。

藤田 その後には高校総体も中止になりました。

二見 高校選手権はどうなるのかも不安でした。高校総体が中止になった時点で、サッカー部とラグビー部以外の3年生は引退なんです。そこで県教委からは「代替大会を行うか」と提案をいただきました。林部長（昭雄氏・県高体連サッカー専門部、SFA 理事）に相談したところ、高校選手権の予選と日程的に被る可能性があるので遠慮しようという話になりました。ただ、高校選手権自体、本当に開催されるかわかりませんでしたから、万が一、高校選手権が中止になった場合、3年生のことを考えると可哀想だなと。悩みました。逆に、なんとか高校選手権はやらせてあげたいという気持ちで進めました。

藤田 ただ学校そのものは5月いっぱい休校で、6月1日から分散登校が始まり、部活は6月22日からでしたよね。

二見 県立高校は週三回、1回90分という時間限定で再開しました。あと土日の練習はなしでした。段階的に再開することになりました。

藤田 通常は8月下旬から高校選手権の一次予選が始まるわけですが……

二見 6月の下旬は、一次予選をいつからやるのか、また本大会は

開催されるのかどうか……実際にやるかどうかかわからない大会の準備に入りましたね。そんな中で11月16日を県予選決勝として、逆算して決めたのが「7月31日に判断しよう」ということでした。

生徒たちが一生懸命に練習している姿、がんばっている姿を見て、なんとか大会を開催しあげたいという気持ちで進めました。



強かった埼玉に戻りたい

藤田 個人的には大会のプログラム作成をどうするのか心配していました。なんとか記録として残してあげたい。また各方面から「仮に大会が中止になってもプログラムだけでも」というご意見も頂戴しました。

二見 プログラムに関しては本当にありがとうございました。ただ短期間では作ることはできないだろうなと思っていました。スタートが3週間ずれこみましたからね。Sリーグの聖望学園会場で試合と平行して顔写真を撮っていただくのを見て、すごいなと。実際、プログラムを手にしたときには本当にうれしかったですね。

あと、抽選会ですよ。いつものさいたま市文化センターでは開催できず、困っていたところ、埼玉スタジアムでできたこと、よかったですね。天気もよく、オーロラビジョンに組み合わせが映されて……大変でしたが、いいこともありました。

結果的に決勝まで無事に終わり、代表校を決めることができてもよかったです。

藤田 改めて、振り返るといろいろなことがありました。

二見 そうなんです、いろいろありました。ただ、ずっと必死にやってきました……覚えているのは、やはり生徒たちのがんばる姿で、苦しかったことは忘れちゃいましたね（笑）。

藤田 そうでしたか……。そこで改めてお聞きしたいのですが、委員長に就任されるのは以前からわかっていたことだと思います。委員長になってやりたいこと、やってみたいことがあったと思いますが、いかがでしょうか。

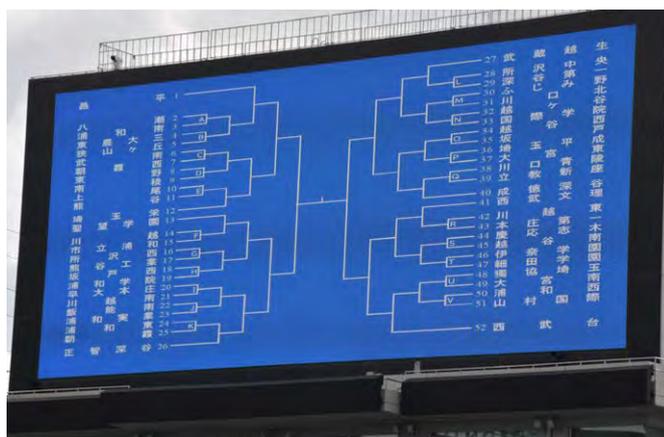
二見 なってみてですが、委員長と副委員長では全然違うなと。その職責の重大さに気づかされました。

自分が委員長になって、ですか……。以前の強かった埼玉に戻りたいということでしょうか。勝てばいいということではないのですが、埼玉のサッカーがもう一度全国で復活してほしいということでした。でも、具体的な施策までは考えていませんでした。

藤田 全国高校選手権の抽選会、今回はテレ玉にお邪魔しましたが、記者会見で藤島監督が「日本一」と目標を明確にされました。初めてでしたね。実は「オーレ！埼玉」を創刊してから27年間、県勢がベスト4に入っていないんです。それが申し訳なくて、また悔しいところです。

二見 昨年の昌平は、準優勝した青森山田に準々決勝で敗れ、埼玉での試合は叶いませんでした。ただ今年は、なんとか準決勝、決勝で見たいものです。一緒に応援してください。よろしく願います。

藤田 ぜひ。今回はありがとうございました。



大会記録 ● 県内大会

1種大学

第53回埼玉県大学サッカーリーグ戦 1部

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	尚美学園大学	18	6	0	0			
2	城西大学	15	5	0	1	17	3	14
3	平成国際大学							
4	共栄大学	9	3	0	3	12	13	-1
5	埼玉大学	5	1	1 (PK勝)	4	4	10	-6
6	駿河台大学	4	1	1 (PK負)	4	5	13	-8
7	獨協大学	0	0	0	6	3	19	-16

※一部試合が消化できず、理事会において審議した結果、尚美学園大学を関東大学サッカー大会へ派遣することを決定した。

2種

高円宮杯 JFA U-18 サッカーリーグ 2020 埼玉 S1 リーグ

●全日程終了

上位リーグ

チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
西武台	5	1	2	1	4	6	-2
正智深谷	7	2	1	1	7	4	3
武南	4	1	1	2	8	4	4
成徳深谷	4	1	1	2	1	5	-4
浦和南	7	2	1	1	6	7	-1

下位リーグ

チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
浦和学院	10	3	1	0	3	0	3
市立浦和	4	1	1	2	5	6	-1
昌平Ⅱ	7	2	1	1	3	2	1
埼玉平成	3	1	0	3	5	7	-2
聖望学園	4	1	1	2	4	5	-1

※前年度結果で上位5チーム・下位5チームに分け、1回戦総当たりで開催。



武南 vs 正智深谷



西武台 vs 浦和南



西武台 vs 成徳深谷



昌平Ⅱ vs 市立浦和



聖望学園 vs 浦和学院



浦和学院 vs 埼玉平成

3種

高円宮杯 JFA U-15 サッカーリーグ 2020 埼玉 第13回埼玉県ユース(U-15)サッカーリーグ 1部

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	坂戸ディプロマッツ	25	8	1	0	26	3	23
2	クマガヤSC	22	7	1	1	35	4	31
3	1FC川越水上公園	21	7	0	2	23	7	16
4	プレジール入間	17	5	2	2	10	10	0
5	ACアスミ	14	4	2	3	13	16	-3
6	成立ゼブラ	12	4	0	5	12	21	-9
7	東松山ペレーニア	8	2	2	5	7	18	-11
8	フォルチFC	6	2	0	7	5	23	-18
9	C.A.アレグレ	3	1	0	8	7	15	-8
10	三郷Jr	2	0	2	7	6	27	-21

中体連

令和2年度新人体育大会兼第33回県民総合スポーツ大会 兼 第30回テレビ埼玉旗争奪サッカー大会

11月5日～15日 埼玉スタジアム

さいたま大原	2	0	杉戸	0
川越城南	1	0	さいたま植竹	2
上尾東	2	2 PK	さいたま尾間木	0
埼玉栄	5	0	草加	4
鶴ヶ島藤	2	0	上里	0
桶川加納	1	0	さいたま南浦和	5
東松山松山	2	1	さいたま土合	1
さいたま日進	1	2	伊奈小針	4
				1

※埼玉栄中学校は13年ぶり3度目の優勝



優勝 埼玉栄

シニア

2020年埼玉県O-40サッカーリーグ 1部

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	クマガヤ	31	10	1	0	27	6	21
2	SOL	27	8	3	0	28	10	18
3	所沢	25	8	1	2	34	7	27
4	西武台	23	7	2	2	28	11	17
5	越谷	21	7	0	4	20	12	8
6	サンシン	14	4	2	5	14	11	3
7	浦和	12	3	3	5	8	12	-4
8	鳩山	10	3	1	7	25	28	-3
9	与野	10	3	1	7	19	24	-5
10	川口	9	2	3	6	20	26	-6
11	神明	7	2	1	8	10	26	-16
12	KFC	0	0	0	11	5	62	-57

フットサル

JFA第26回全日本フットサル選手権大会 埼玉県大会

10月11日～11月22日 庄和総合体育館他

岩槻フットサルクラブ/tzk 1
 スプリズ 5
 MESSE大宮FC 0
 F&F iwatsuki 4
 Mf・FC 1
 東京国際大学 4
 パルーラ 0
 ラウニダット埼玉 5
 G.F.C 6
 烏天狗フットサルクラブ 4

城西大学 2, 8
 2
 1
 3
 6
 2

2
 7
 5
 4
 1
 6
 1
 5
 3
 2

AOHフットサルクラブ
 FGサルー
 カリエンテ
 デールさいたま
 ヌークレオFC
 城西大学
 If levante
 アバンソールさいたま
 FC.九龍
 グラブ フットサルクラブ

※城西大学は初優勝。関東大会へ出場する

第2回埼玉県U-18フットサルリーグ (予選リーグ)

9月27日～12月6日

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	正智深谷高校サッカー部	12	4	0	1	48	16	32
2	FFCエストレーラ川口	10	3	1	1	43	17	26
3	叡明高校フットサル部	10	3	1	1	42	20	22
4	埼玉平成高校サッカー部	6	2	0	3	29	35	-6
5	山村国際フットサル部	6	2	0	3	18	42	-24
6	イフ レバンテ	0	0	0	5	19	69	-50

JFA第11回全日本U-15女子フットサル選手権大会埼玉県大会

9月20日、10月28日 SFAフットボールセンター他

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	白岡SCL	6	2	0	0	15	3	12
2	熊谷リリーズカサブランカ	3	1	0	1	5	11	-6
3	クマガヤSCライラック	0	0	0	2	5	11	-6

※1位となった白岡SCLが関東大会へ出場

大会記録 ● 県外大会

1種

第54回関東社会人サッカー大会

11月14日～29日 埼玉スタジアム第2グラウンド他

1回戦 Tokyo International University 2-1 作大FC
 JSC CHIBA 0-2 与野蹴魂会
 日本工学院F・マリノス 0-0 大成シティFC坂戸
 山梨学院大学ベガサス 1-3 アヴェントゥーラ川口

2回戦 Tokyo International University 3-0 tonan前橋サテライト
 南葛SC 5-1 与野蹴魂会
 アストラ倶楽部 1-3 アヴェントゥーラ川口

準決勝 Tokyo International University 2-4 (延長) 南葛SC
 日本工学院F・マリノス 1-3 アヴェントゥーラ川口

決勝 南葛SC 2-1 アヴェントゥーラ川口

※優勝は南葛 SC。準優勝のアヴェントゥーラ川口と共に関東リーグ2部
に昇格



準決勝 アヴェントゥーラ川口 vs 日本工学院F・マリノス



準決勝 TIU vs 南葛SC

JR東日本カップ2020第94回関東大学サッカーリーグ戦2部

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
9	東京国際大学	20	5	5	10	34	40	-6

2種

高円宮杯JFA U-18サッカーリーグプレミアリーグ関東2020

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
2	大宮アルディージャU18	13	4	1	2	16	8	8
6	浦和レッズユース	9	3	0	4	8	11	-3

高円宮杯JFA U-18サッカーリーグ プリンスリーグ関東2020

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
3	昌平高校	15	5	0	4	11	15	-4



プリンスリーグ関東 昌平高校

3種

高円宮杯JFA第32回全日本U-15サッカー選手権大会関東大会

11月7日～15日 関東各地

●Aブロック

1回戦	SC相模原	2-1	クラブ与野
	クマガヤSC	2-1	湘南ベルマーレWEST
2回戦	クマガヤSC	2-2	FC多摩 (延長)

●Bブロック

1回戦	GRANDE FC	2-0	FOURWINDS
	栃木SC	4-0	FC KASUKABE
2回戦	GRANDE FC	0-2	横浜F・マリノス

●Cブロック

1回戦	柏レイソルU-15	不戦勝	さいたま市立南浦和中
	東松山ペレニア	0-5	TOKYU Reyes
	Boca飯能	0-2	坂戸ディプロマッツ
	ACアスミ	3-0	三菱養和SC巣鴨
2回戦	さいたま市立南浦和中	1-3	ジェフ市原・千葉U-15
	坂戸ディプロマッツ	4-0	ACアスミ
準決勝	TOKYU Reyes	3-0	坂戸ディプロマッツ

●Dブロック

1回戦	日立JYSC	0-4	大宮アルディージャU15
2回戦	FCリベレオ	0-5	大宮アルディージャU15
準決勝	東京ヴェルディ	0-1	大宮アルディージャU15
代表決定戦	前橋FC	1-1	大宮アルディージャU15 (PK 3)

※大宮アルディージャU15が本大会に出場。ちなみに2020関東ユース(U-15)サッカーリーグ(1部)優勝のFC LAVIDA、2位の浦和レッズジュニアユースも出場する

2020関東ユース(U-15)サッカーリーグ(1部)

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	FC LAVIDA	22	7	1	1	27	9	18
2	浦和レッズジュニアユース	19	6	1	2	16	7	9
6	大宮アルディージャ	9	3	0	6	11	19	-8

※FC LAVIDAは初優勝

2020関東ユース(U-15)サッカーリーグ(2部A)

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
5	クラブ与野	14	4	2	3	14	12	2

2020関東ユース(U-15)サッカーリーグ(2部B)

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
6	GRANDE FC	9	2	3	4	14	13	1

女子

2020 プレナスなでしこリーグ 1部

全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	浦和レッズレディース	44	14	2	2	37	17	20

※浦和レッズレディースは6年ぶり3度目の優勝

2020 プレナスなでしこリーグ 2部

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
2	ちふれASエルフェン埼玉	36	11	3	4	33	13	20
8	FC十文字VENTUS	13	3	4	11	15	40	-25

第26回関東女子サッカーリーグ1部(Group A)

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
3	浦和レッズレディースユース	3	1	0	2	4	6	-2

●順位決定戦

12月12日 レッズランド

浦和レッズレディースユース 3-0 神奈川大学

※浦和レッズレディースユースは3位

第26回関東女子サッカーリーグ 2部

●Group A

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	大東文化大学	7	2	1	0	5	2	3
2	東京国際大学	4	1	1	1	6	2	4
4	尚美学園大学	1	0	1	2	1	12	-11

●Group B

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
2	武蔵丘短期大学シエンシア	4	1	1	1	5	6	-1

●順位決定戦

大東文化大学 1-2 SEISA OSAレイア湘南FC

東京国際大学 3-2 武蔵丘短期大学シエンシア

慶応義塾大学 - 尚美学園大学

※大東文化大学は1位

第34回関東大学女子サッカーリーグ 1部

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
7	大東文化大学	11	3	2	4	11	13	-2
10	武蔵丘短期大学シエンシア	2	0	2	7	4	19	-15

第34回関東大学女子サッカーリーグ 2部

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	東京国際大学	22	7	1	1	24	2	22
7	尚美学園大学	9	3	0	6	9	16	-7

第29回 関東高等学校女子サッカー選手権大会 兼

第29回 全日本高等学校女子サッカー選手権大会関東予選会

11月14日～22日 栃木県内

1回戦 暁星国際 5-0 南稜
本庄第一 3-1 流通経済大柏

2回戦 本庄第一 0-5 修徳
敗者復活戦 鹿島学園 2-1 本庄第一

7位決定戦 宇都宮文星女子 3-1 本庄第一

※優勝は修徳。上位7チームが本大会に出場

第24回関東女子ユース(U-18)サッカー選手権大会 兼

JFA第24回全日本U-18女子サッカー選手権大会関東予選

10月3日～24日 千葉県内

1回戦 ちふれASエルフェン埼玉マリ 0-0 茨城フットボールアカデミー
10PK11 INAC東京レオンチーナ 0-5 浦和レッズレディースユース

2回戦 十文字中学高等学校 0-10 浦和レッズレディースユース

準決勝日テレ・東京ヴェルディメニーナ 0-1 浦和レッズレディースユース

決勝 ジェフ市原・千葉レディースU-18 0-2 浦和レッズレディースユース

※優勝は浦和レッズレディースユース。上位4チームが本大会出場

第25回関東女子ユース(U-15)サッカー選手権大会 兼 JFA 第25回全日本U-15女子サッカー選手権大会関東予選

11月7日～15日 ひたちなか市総合運動公園陸上競技場他

1回戦 GRAMADO FC TOKINAN 0-0 湘南ベルマーレU15ガールズ
3PK 4
白岡SCL 4-0 横須賀シーガルズMEG

2回戦 FC駒沢女子 2-6 FC十文字VENTUS U-15
ザスパクサツ群馬レディースU-15 1-1 白岡SCL
4PK 3
0-4 浦和レッズレディースジュニアユース
小美玉フットボールアカデミー

準々決勝 日テレ・東京ヴェルディセリアス 3-0 FC十文字VENTUS U-15
ザスパクサツ群馬レディースU-15 0-6 浦和レッズレディースジュニアユース

準決勝 ジェフ市原・千葉レディースU-15 0-1 浦和レッズレディースジュニアユース

決勝 日テレ・東京ヴェルディセリアス 1-3 浦和レッズレディースジュニアユース

※優勝は浦和レッズレディースジュニアユース。上位6チームが本大会へ出場する

JFA U-15女子サッカーリーグ2020関東

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
3	浦和レッズレディースジュニアユース	14	4	2	1	29	12	17

シニア

JFA 第8回全日本O-40サッカー大会

11月7日～9日 Jヴィレッジ
グループC

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	FC西武台シニア	7	2	1	0	4	1	3

●決勝トーナメント

準決勝 FC西武台シニア 0-1 横浜シニア

※FC西武台シニアは3位、優勝は横浜シニア



FC 西武台シニア

JFA 第15回 全日本O-70サッカー大会関東予選会

第2ブロック

1回戦 埼玉シニア70 0-3 東京都ロイヤル

※関東代表は茅ヶ崎シニア70と東京都ロイヤル

JFA 第21回 全日本O-60サッカー大会関東予選会

Bブロック

1回戦 埼玉シニア60 1-0 ドリーム水戸シニア60

●代表決定戦

埼玉シニア60 0-1 横須賀アズール60

※関東代表はPET(東京都)、横須賀アズール60、第3代表として埼玉シニア60(抽選による)

フットサル

JFA 第17回全日本女子フットサル選手権大会

10月30日～11月1日 よつ葉アリーナ十勝

1回戦 エスポラーダ北海道イルネーヴェ 3-4 さいたまサイコロ

準々決勝 さいたまサイコロ 1-0 福井丸岡ラック

準決勝 さいたまサイコロ 2-2 SWHレディース西宮
3PK 4

3位決定戦 さいたまサイコロ 1-6 アルコ神戸

※さいたまサイコロは4位。優勝はSWHレディース西宮

JFA 第26回全日本U-15フットサル選手権大会 関東大会

11月23日～28日 埼玉県内

●1次ラウンド・Cブロック

エストレーラ川口U15 2-7 MES千葉ヴィットーリアスFC

エストレーラ川口U15 8-5 AVS群馬エヴォリスタU-15レッド

※エストレーラ川口U15はブロック2位。優勝はフウガドールすみだウイングス

JFA 第11回全日本U-15女子フットサル選手権大会 関東大会

11月23日～28日 埼玉県内

1回戦 白岡SCL 3-2 暁星国際中学校

準決勝 山梨女子トレセンU-15 4-5 白岡SCL

決勝 白岡SCL 5-4 FC駒沢女子

※優勝は白岡SCL。白岡SCLは全国大会に出場

インフォメーション

●JFA、臨時評議員会を開催

12月26日、JFAは臨時評議員会をオンラインにて開催しました。一般社団法人日本女子プロサッカーリーグ(WEリーグ)をJFAの加盟団体に認定すること、WEリーグチェア(代表理事)の岡島喜久子さんをJFA理事に選任することが承認され、「JFA中期計画2021-2024」と来年度の事業計画、それに基づく2021年度の予算について報告されました。

特に2021年からの4カ年は、「2050年までにFIFAワールドカップで優勝する」と「2050年までにサッカーファミリー100万人にする」という「JFAの約束2050」に向けてより一層力を注ぐことにしています。SFA他、47FAも一緒に、登録制度の改革と新たなメンバーシップ制度を確立し、サッカーファミリーの一人一人とつながるシステムを構築し、中でも4種年代と女子、シニアの3カテゴリーに重点的に取り組むという報告がなされました。

合わせて、多くの人々がサッカーを続けられる環境を維持し、日本サッカーの水準向上、社会貢献やSDGs達成のための活動を推し進めていきます。

予算については、特定資産の取り崩し前で収入約188億円、支出約216億円となりました(正味財産ベース)。これは、2020年度期初予算からの主な悪化要因は新型コロナウイルス感染拡大の影響によるもので、2021年度も引き続き、納付金収入は未計上としてのこと、また、SAMURAI BLUE(日本代表)の国際親善試合や国内大会の入場制限などによる収支減も含んだ上の予算となっています。

来年度にはJFAの100周年事業もあります。まだまだ先行きが見えない状況ではありますが、SFAとしてはJFAの事業推進に寄与し、引き続き埼玉のサッカー発展を目指すよう協会運営を目指してまいります。

コロナ禍の中、県内・県外の競技会やリーグ戦が開催され、この号で膨大な大会記録を掲載することになりました。そのこと自体は喜ばしいのですが、未だ感染拡大は止まず、先の見えない状況が続いています。この号で高体連・二見委員長のインタビューを掲載しましたが、お話をあつた通り、大会運営側の皆さまは前例のない事態に対応を迫られご苦労をされてきました。どの種別でも同様の困難があったことと思います。この場をお借りして、関係の皆さまに御礼を申し上げます。

例年であれば県大会の結果が次のステージにつながり、リーグ戦の結果が翌年の昇降格につながり、チームにはモチベーションや目標がバトンタッチされていきます。しかし今年はそれらのレギュレーションが一部分断されたり、結果が反映されなかったりしています。「ことは仕方ない」という空気はあるかもしれませんが、でも「この一年があったからこそ」の、実りある一年になってほしいと願っています。

2021年もどうぞよろしくお願いいたします。(藤田)